SHICHIJO J.H.S

未来のカタチ

ミライノカタチ

令和３年１０月号
京都市立七条中学校

道徳通信

＊＊＊学校教育目標＊＊＊
『自主・自律・共創』
～社会や人とのつながりの中で，自らを律し主体的に学び，共に未来を創造する生徒の育成～

10 月から緊急事態宣言が解除されました。新型コロナウィルスの感染者の数も少なくなってきており，少しづつですが，普段の生活が戻りつつあります。もうしばらく，様子を見ながら慎重に行動していきましょう。近い未来に「そういえばあんな毎日もあったよなぁ…」ときっと振り返れると信じましょう。

さて，今週末はハロウィンです。もともとハロウィンは古代ケルト人の儀式「サウィン祭」という秋の収穫祭が起源。古代ケルト歴では１０月３１日が１年の終わりの日とされていました。この日の夜にはあの世とこの世の境い目がなくなり，死者の霊が現世の家族に会いに来ると信じられていたそうです。しかし，それといっしょに悪霊や魔女がやってきて作物を荒らしたり，子どもを連れ去っていったりと，悪さをするとおそれられる日でもありました。そこで収穫祭の夜，人々は仮面を被って仮装し，魔物たちを追い払ったと言われています。ハロウィンでお菓子を配るようになった理由としては，夜の町にさまよう悪霊を遠ざけるため「お菓子をあげるから帰ってください」とお願いする目的があるようです。ハロウィンを楽しむのもいいですね。

＊－＊－＊－＊－**授業の様子を紹介します**－＊－＊－＊－＊

１年生　“花に寄せて”　「生きることの素晴らしさを感じて」

星野富弘さんを知っていますか。星野さんは中学校の体育教師でしたが，授業中の事故で頸椎損傷の大けがを負ってしまいます。何とか一命をとりとめますが，肩から下がまったく動かせなくなり，回復の見込みもありませんでした。一度は生きる望みさえなくした星野さんが，絶望からはい上がれたのはなぜでしょうか。そこには，練習に練習を重ねてできるようになった，口にくわえた筆で詩画を描くことと，支えてくれた多くの人への感謝がありました。授業では，たくさんある星野さんの詩画をモニターに映しながら，１人ずつ分担して朗読してもらいました。

≪ワークシートより（授業の感想）≫

- 友達みんなの朗読はほんとうによかった。少し読むのが苦手な人もいたがそんなの関係なし。一つ一つの詩からその詩と絵で伝えたいことがよく伝わってきた。
- 一人一人必ずどこかが違うが，同じじゃないからいけないわけではなく，自分じゃないとできないことを見つけることがすばらしいと思った。
- 私もきっと自分の中にかくされた何かがあると思ったし，それを見つけて自分のものにしたいと思った。人それぞれにすばらしさがあって，毎日生きていることもすばらしいと思った。
- 生きているからこの人に出会えた。生きているから話せている。上手くいかなくてもいいから自分から向かっていこうと思った。何ごとも自分のすべての力を出して一つ一つこなしていくことに意味があると思った。
- 私は何か目標を達成した時，誰かに喜んでもらえた時，必要とされている気がする時，どうしようもない幸福感に包まれているようなそんな時間が一番好き。目にうつる全てのものが，いつもよりきれいに見えるから。

2年生 “宝塚方面行き－西宮北口駅”

9月からローテーション道徳を実施，学年担当の先生方が順番に授業を担当してくださっています。今回は藤原先生の授業の様子を紹介します。

電車通学をしているミサ。友達，マユミのために座席にカバンを置いて場所を取っておきます。すると，目の前のおじいさんにいきなり大声で怒鳴られます。周囲の乗客に白い目で見られる中，ミサは「友達が掃除で疲れて帰ってくるから…」と言い訳を。ミサと途中で乗ってきたマユミは，バツの悪い様子で電車を降ります。

多くの人が利用する公共の場で，人に迷惑をかけないために，どのようなことに気を付けなければならないのかを考えました。名乗り出てくれた数名に役割を担当してもらい，寸劇をしてもらいましたが，臨場感があり，とても活発な授業となっていました。

≪ワークシートより（授業の感想）≫

・電車などの座席も，少しずつつめたら１人，２人は座れるようになると思うし，ひとり１人が小さいことに気を付けることが大切だと思う。自分も他人から見たら「迷惑な人」にならないようにしたい。
・いつもの道徳と少し違って，クラスの人が役になりきって演技していて考えやすかった。高校などに通学することになれば，公共の場を使うことが多くなるので，改めて公共の場のルールをしっかり意識したいと思った。
・自分がされて嬉しいことを人にできるような人になれるよう，心がけたい。
・人のことを気づかって過ごすことで，絶対にみんなが気持ち良く過ごせると思う。要するに「人に優しく，自分に厳しく」することが大事。

3年生 “社会からの無言の賞賛を感じる感性”

９月より３年生担当教員によるローテーション道徳を行っています。

毎回道徳の授業をする先生が変わり，様々なテーマや話題について学んできました。今回はその中の１つを紹介します。誰からも感謝や賞賛の言葉を受けなくても，誰かがやらなければならないことをする人がいることについて，社会全体が成り立っています。「雪かき」をテーマに，村上春樹氏や内田樹氏の考えをもとに紹介している教材を使って，自分たちのこととして振り返って考える機会を持ちました。普段の生活の中でも，クラスや学校，家庭や地域などでも，見えないところで頑張ってくれている人たちの存在に気が付いた人もいたようです。

≪ワークシートより（授業の感想）≫

・自分のことを中心に動く人は，誰もやろうとしないことに誇りを持ってしている人達のおかげで動けているのだということを知ってほしい。
・社会には誰かがやらないといけない仕事がたくさんあるし，それを率先してできる人はすごいと思った。私も誰かの役に立てる仕事をしたいと思う。
・いろんな人が誰かのために支え，助け合ってる…みたいなのが社会を支えているんやなと思った。いろんな人のおかげで自分がいることに気づかないとあかんと思う。
・私が知らないところでたくさんの人が人のために行動してくれていることが分かって，「ありがとう」と思った。